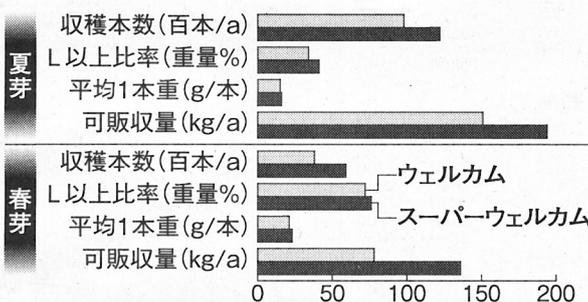


農業技術

プリズム

長崎県におけるアスパラガス栽培は、半促成長期どり栽培と

アスパラガス品種の収量性の比較(2013年)



アスパラ「Grande」

収穫若茎が太い傾向 収量性高い有望品種

いわれ、無加温のビニールハウス内で2〜10月までの長期間にわたり収穫する作型です。品種は「UC157(ウェルカム)」がほぼ100%を占めていま

少する傾向にあります。そのため近年は、株の改植技術や収量性が高い品種への、更新に対する産地の関心が高まっており、本県に適した収量性の高い有望品種を検討してきました。

その結果、後継の有望品種として、より収量性が優れている「Grande(スーパーウェルカム)」を選定しました。収穫若茎が太く、L級以上の太目の率が高くなります。「ウェルカム」より1本が太くなるため収量は多くなり、収量に対して収穫労力は軽減されます。この傾向は、特に春芽において観察されます。(図)

す。
アスパラガスは、植え付けてから10年程度は同じ株で栽培を続けますが、栽培年数が長くなると株の老齢化により収量が減

収穫時期別の価格は春芽が高く、夏芽は比較的安いのが一般的です。「スーパーウェルカム」は高単価時期の春芽で、特に高単価な太ものが多く、収量性も高いことから、生産者の収益性の向上につながると期待し、普及を図っています。

(農林技術開発センター・陣野信博)